

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0270201577		
法人名	社会福祉法人津軽富士見会		
事業所名	グループホーム鬼沢		
所在地 (電話番号)	〒036-1205 青森県弘前市鬼沢山ノ越249 (電話) 0172-99-5002		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価確定日	平成22年3月24日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1		要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	84 歳	最低	75 歳
		最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人元秀会 弘前小野病院、ふじた歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岩木山の裾に建物があり、りんご畑に囲まれ四季折々の風景を見ながら自由に散歩することが出来る。特別養護老人ホーム、デイサービスセンターも隣接しており、訪問、祭りなどで交流が図られている。ホール部分には天窓があるが、直接光が当たらないように工夫され、ゆったりとしたくつろぎの場を提供している。入居者が作った貼り絵や工作などが綺麗に飾られている。職員は毎朝の朝礼で理念を唱和し、日々意識しながら支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	権利擁護、成年後見人制度に関しては月1回内部での勉強会を行っており、知識を習得する前向きな姿勢が感じられた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者が中心となって職員と話し合い、自己評価に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	2ヶ月に1回開催され、行政担当者、町内会長、地域包括支援センター担当者、家族等が参加され、外部評価の結果報告や行事予定、認知症についての意見交換をしている。参加者からの意見を取り入れ、サービスの質向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	苦情処理のマニュアルを作成し、迅速に対応出来る体制となっている。面会時等に声がけをし、意見や要望がないか伺っているほか、玄関には意見箱を設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の祭りや行事への参加、保育園や小学校の訪問など地域との交流が図られている。運営推進会議には町内会会長が出席してくれている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中、利用者の命と尊厳を守り、楽しく笑い心豊かに穏やかに生活できるように共に学びあう」を理念に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に全職員が集まり理念について確認し、共有を図りながら理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の祭りや公民館を開放しての行事に招待していただいたりと地域との交流が図られている。また、近隣の保育園や小学校の訪問もある。事業所の運営推進会議には町内会の会長が出席してくれている。今年度は新型インフルエンザが流行したため、行事への参加はひかえている。		認知症を理解していただくために普及活動を開催するなどの取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価は全職員で取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議には行政担当者、町内会長、地域包括支援センター担当者、家族等が参加され、事業所や入居者の状況報告、意見交換を行っている。会議の内容は記録を取り、職員へも周知している。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へは事業所の実情を伝え、運営やサービスについての課題解決に向けて協議し、サービスの向上に取り組んでいる。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用前に家族へ制度に関して説明を行っている。職員に関しては、職員会議や事業所内研修にて学ぶ機会を持ち、全職員に周知し理解を深めている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内ではパンフレットを用いながら、勉強会を開催している。言葉使いや対応に注意し、全職員で虐待防止に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申し込みの際は、重要事項説明書、契約書、個人情報取り扱い等についてを書面を用いて丁寧に説明し、理解・納得を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>入居者の生活状況については、家族の面会時や年3回発行の便りで報告している。金銭については、毎月領収書を発行し、報告している。状態に変化があった時は随時報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの要望等はいつでも受け入れ、対応できる体制がある。玄関には苦情用のポストが設置されている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>母体施設の行事にも参加しており、職員とも顔なじみとなっているため、異動があっても入居者へのダメージは少ない。異動や離職があった場合は入居者の情報を共有し、職員間で協力し合いながら入居者のダメージを防いでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内での勉強会や研修会の開催のほか、職員が外部研修へ参加できるよう積極的に支援している。研修会参加後は報告会を実施し、全職員へ周知している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会開催の研修会等に参加し、他事業所と情報交換をするなど交流を図り、サービスの質向上に向けた取り組みをしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に本人と面接をしたり、事業所の見学に来ていただいている。入居者の生活歴を重要視し、趣味や嗜好品などを取り入れ、徐々に新たな環境に馴染めるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者から料理や風習について教えてもらったり、作業を手伝ってもらい、入居者が出来ない部分は職員がさりげなく支援するなど、共に支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。本人から意向の確認が難しい場合は、無理に進めず、職員が本人本位となるよう検討しながら進めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成は、全職員で入居者の希望や課題を出し合いながら取り組んでおり、入居者、家族の要望・希望が反映された介護計画となっている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月に1回見直しをしている。状態に変化が見られるなど、見直しが必要になった際には、その都度計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ドライブや通院の支援をしている。また、希望があれば家族の宿泊も可能である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続している。通院は職員が対応し、家族へも結果や状況の報告をしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合の対応について家族へ説明を行い、理解を得ている。事業所での対応が困難な場合は、母体施設で対応できる体制がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中での言葉かけや対応など、意識しながら取り組んでいる。本人のプライバシーに配慮し、排泄誘導時など、さりげない声かけを常に心がけている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理に職員側からは進めたりせず、入居者のペースや希望に合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>テーブル拭きや茶碗拭きなど、入居者と一緒に行っている。また、入居者と職員と一緒に食事をし、職員はさりげなく支援をしながら、食事が楽しいものとなるよう配慮している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週3回を基本としているが、希望があればいつでも入浴できる体制がある。入浴日以外は、毎日足浴を実施している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴を重要視しながら、本人の趣味や特技を活かした役割を持っていただいている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者から外出や買い物等の希望があれば、いつでも対応できる体制がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルが作成されており、事業所内で勉強会を開催し理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動パターンを把握し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、居室も鍵はかけていないため、入居者同士が自由に行き来している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年3回実施している。また、地域の防災協力員の協力体制があり、入居者の避難場所の確保も出来ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士が献立を作成しており、カロリー計算されている。摂取量や水分補給についてもしっかり記録されている。糖尿病の持病がある入居者に関しては、医師から指示をもらうなど、入居者個々の体調に合わせた食事管理をしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	月に1回、感染症委員会で感染症対策について会議を開催し、決定事項を回覧や口頭で全職員へ伝え、実行している。感染症予防についてのマニュアルも作成され、職員がいつでも確認できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の生活歴が感じられ、本人に合った居室の空間作りがなされている。たたみを使用した居室もあり、入居者に選んでいただき、個々の趣味を取り入れられ、クラブで行った生け花を居室に飾り、入居者への配慮がいきわたっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族が遠方から見える方への対応はいつでも可能となっており、お盆や正月に家族と一緒に過ごすことも出来るよう工夫し、常に入居者が楽しくその人らしく思い思いに過ごせるよう支援している。</p>		

 は、重点項目。